

八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館
Korekawa Archaeological Institution



国宝 合掌土偶 風張1遺跡出土
縄文時代後期後半（約3,600年前）
高さ19.8cm 幅14.2cm 重さ1,050g

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

是川縄文館は、隣接する是川遺跡や風張^{かざはり}1遺跡などを通して、東北地方の優れた縄文文化を発信し、埋蔵文化財の積極的な公開活用と適切な保存管理を図る施設として建設されました。

館事業として、埋蔵文化財の調査・収蔵・活用を行うほか、是川遺跡の整備活用などを実施します。市民や来館者が八戸の魅力を再発見し、誇りや愛着が感じられるように努め、埋蔵文化財の重要性を伝えて参ります。



是川縄文館外観

敷地面積 13,752.55㎡
建築面積 2,602.98㎡
延床面積 4,593.82㎡
常設展示室面積 580.52㎡



館内：アトリウム展示（是川縄文針盤）

展示室 Photo :
Foward Stroke inc. (株)丹青社

調査

埋蔵文化財の発掘調査・研究
共同研究

遺跡は先人がくらしした痕跡であり、八戸の歴史を知る重要な手がかりです。開発などによって遺跡が壊される場合、発掘調査を行い、遺跡の情報を記録して保存します。また、外部の機関と共同で研究を行い、遺跡から新たな情報を引き出します。



新井田古館遺跡の発掘調査

収蔵

埋蔵文化財の収蔵・保管

館内には、八戸市内の遺跡から出土した遺物を保管するため、一般・特別収蔵庫の二つがあります。一般収蔵庫では土器・石器などを保管し、特別収蔵庫では24時間適切な温度・湿度を保ち木製品・鉄製品などを保管しています。



一般収蔵庫

活用

埋蔵文化財の活用
常設展示・企画展示
体験学習・講座・教室

教育普及は、展示・体験学習・各種講座を開催するほか、遺跡の公開や図書の閲覧なども実施し、多くの市民や子供たちに楽しく学べる機会を提供します。

常設展示室は、是川中居遺跡と風張1遺跡の発掘成果及び重要文化財となっている出土品を中心に展示し、直感的に縄文人の芸術性に触れる「縄文の美」、是川遺跡の調査・研究成果を通して学習する「縄文の謎」、国宝の合掌土偶を展示する「国宝展示室」などで構成されています。

企画展示室では、是川遺跡や縄文に関わる多様なテーマ、埋蔵文化財に関わるテーマの特別展・企画展を実施します。



常設展示：縄文の美（漆の美）



常設展示：国宝展示室



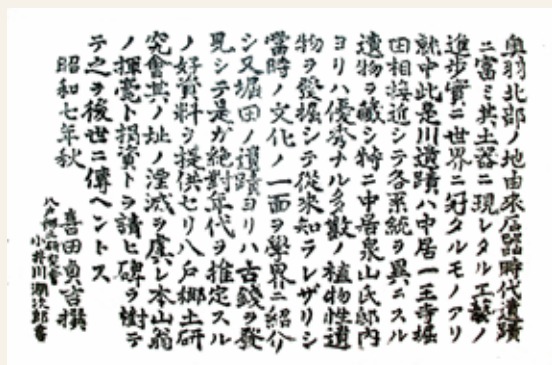
常設展示：縄文の謎



本館から徒歩で15分ほど歩くと、是川遺跡の保存をうたう記念碑があり、そこから遺跡を一望することができます。



体験学習（縄文土器づくり）

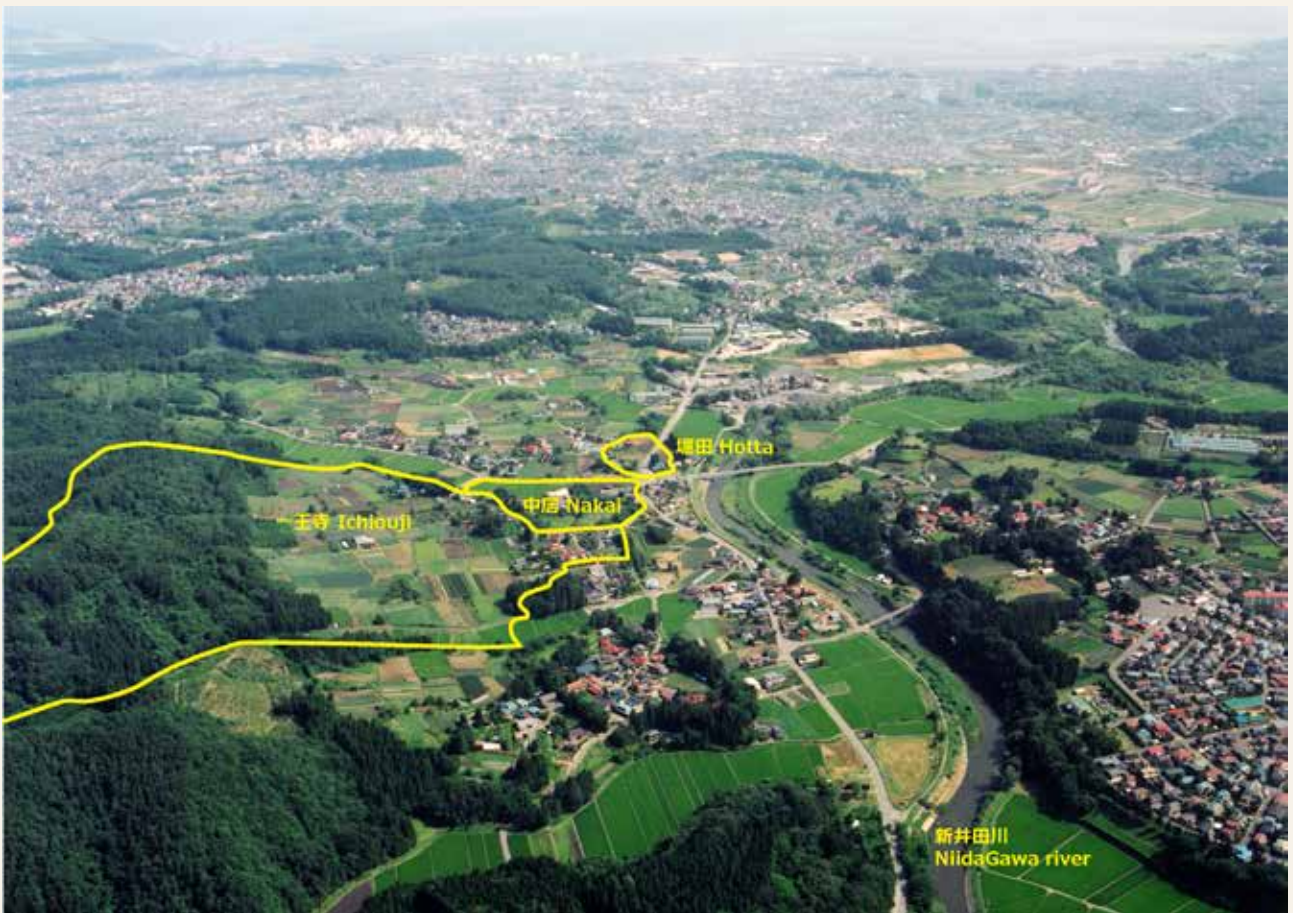


是川遺跡記念碑の碑文



是川遺跡記念碑

史跡 是川石器時代遺跡



「是川石器時代遺跡」は、「是川遺跡」とも呼ばれています。八戸市庁から南へ4km、新井田川沿いの標高15～100mの台地に広がる縄文時代の遺跡です。堀田遺跡・一王寺遺跡・中居遺跡の3遺跡の総称であり、それぞれが接しながら、異なる時代に営まれた遺跡です。

集落は前～中期には一王寺に作られ、中期の終わり頃には堀田へ、後期になると風張へ移動し、晩期には中居へと変遷しています。

遺跡は昭和32（1957）年に史跡に指定され、平成16（2004）年、平成25（2013）年には追加指定されています。

泉山氏による発掘

是川遺跡は、大正～昭和のはじめにかけて、八戸市の泉山岩次郎・斐次郎兄弟によって発掘が行われ、出土した遺物の素晴らしさは全国的に注目を集めるようになりました。泉山両氏はこれらの遺物を大切に守るだけでなく、写真を撮って絵葉書を作成し、文化財保護の普及啓発を行いました。

現在、地元では是川遺跡出土品をみることができるのは、ふたりの功績によるものです。



大正～昭和の発掘写真



ガラス乾板による写真



遺物の絵葉書

遺跡について

堀田

堀田遺跡（ほった）
縄文時代中期・晩期
弥生時代前期
18,000㎡

昭和7（1932）年に縄文時代の竪穴建物跡が発見され、付近から宋銭（慶徳元宝）が出土しました。当時は東北北部の縄文時代の終末について意見が分かれており、喜田貞吉氏は、堀田遺跡やほかの出土例から、金属器が使われる平安時代末期まで縄文時代の生活が続いていたことを主張しました。これに反論する山内清男氏との間で繰り広げられた論争に登場する遺跡の一つが堀田遺跡です。

昭和～平成の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡や土坑群のほか、弥生時代前期の土器が発見されています。弥生土器には靱痕が付いたものがあり、八戸地方への水稻稲作の伝播を考える上で重要な資料です。



貯蔵穴とみられる土坑群



縄文時代中期の土器
（清水寺蔵・八戸市博物館公開）

一王寺

一王寺遺跡（いちおうじ）
縄文時代前・中・後・晩期
弥生時代前期・平安時代
276,000㎡

大正15（1926）年に東北大学の長谷部言人、山内清男両氏が発掘調査を行い、出土したバケツ形の土器は、この発掘がきっかけとなり「円筒土器」と名付けられました。

昭和4（1929）年には大山史前学研究所の宮坂光次氏らによる発掘調査が行われ、円筒土器の層が1.5mもあることや、獣骨や魚骨とともに骨角器が出土していることが報告されています。

平成の調査により、縄文時代前期～中期の竪穴建物跡・土坑・捨て場などが南側を中心に広がっていることが明らかとなったほか、西側の山地にも縄文時代中期や晩期の竪穴建物跡などが発見されています。また、西側の山地には、中居の低湿地の水源と考えられる湧水点が発見されています。



全景（山裾から東側を望む）



中期の捨て場



是川石器時代遺跡の変遷

遺跡について

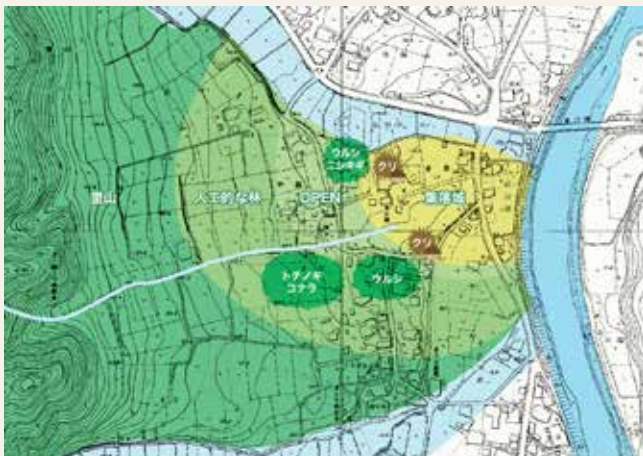
中居

中居遺跡（なかい）
縄文時代中期・後期・晩期
弥生時代前期
32,000㎡

中居遺跡は大正9（1920）年から、泉山兄弟によって発掘されています。大正15（1926）年には中居遺跡南側から、篋形木製品、漆塗りの腕輪などが縄文時代晩期の土器とともに発掘され、その後も藍胎漆器や赤漆塗りの弓などが相次いで出土したことから、是川遺跡への関心が高まり、昭和4（1929）年には、東京にあった大山史前学研究所が本格的な発掘調査を行っています。この調査では、中居遺跡の「特殊泥炭層」は捨てられたクルミやトチなどの木の実が堆積したものであることが明らかになりました。

戦後の昭和～平成の調査では、北西側から縄文後期～晩期の土墓坑が発見され、赤い顔料が付いた人骨もみられました。その東側には、縄文後期～晩期の竪穴建物跡も発見されました。さらに南側低湿地の調査では、縄文時代の沢跡、水場、送り場が明らかになりました。送り場には、縄文時代晩期前半の生活道具や食料残滓が多量に含まれており、色鮮やかな赤色漆を塗った弓や容器、装身具なども出土しました。

出土した木器の樹種や、堆積土に含まれている種子や花粉の分析から、是川遺跡の縄文時代晩期の植生が復元されています。集落の周辺は有用な植物を優先した人工林や里山が広がり、クリやトチなどは食料としてだけではなく、建築材や木器の材料として使われるなど、是川縄文人の総合的な植物利用のようすが明らかになりつつあります。



是川遺跡の植生復元（縄文時代晩期）



低湿地は現在も地下水が豊富に湧き出している



台地で発見された土坑墓と縄文人骨



捨て場から出土した漆塗り櫛と樹皮製容器



縄文時代晩期の中居遺跡

縄文の里整備事業

八戸市は、是川縄文館を拠点とし、史跡是川石器時代遺跡の保存・整備・活用を進めています。

平成 30（2028）年に史跡是川石器時代遺跡保存活用計画、令和 2 年（2020）に史跡是川石器時代遺跡第 1 期整備基本計画を策定しました。

現在は、縄文時代晩期の中居ムラの様子を復元する、第 1 期整備工事を進めています。



第 1 期整備完成予想図

世界遺産 「北海道・北東北の縄文遺跡群」

世界遺産とは、顕著な普遍的価値を持ち、すべての人々が共有し、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通の宝です。

北海道・北東北の縄文遺跡群は、紀元前 13,000 年頃から紀元前 400 年頃にかけて北東アジアで発展した狩猟・漁労・採集社会における定住の開始、発展、成熟を示す稀有な物証として、令和 3（2021）年 7 月 27 日に世界遺産に登録されました。

北海道・北東北の縄文遺跡群には、4 つの特徴があります。

- ①自然の資源をうまく利用した生活
- ②祭祀・儀礼を通じた精緻で複雑な精神性
- ③集落の立地と生業との関係性が多様である
- ④集落形態の変遷を示す

構成資産である是川石器時代遺跡は、定住成熟期後半（縄文時代晩期）の竪穴建物・墓・水場・送り場・配石など多様な施設を伴う集落で、河川流域における生業や高い精神性による祭祀・儀礼のあり方を示す重要な遺跡です。

関連資産である長七谷地貝塚は、東北地方では数少ない定住開始期後半（縄文時代早期）の貝塚を伴う集落跡です。組合せ式の釣針や銚頭などの骨角器が出土し、漁労文化が発達していたことがわかります。漁労を中心とした生業や自然環境を知る上で重要な遺跡です。



①大平山元遺跡（外ヶ浜町）②垣ノ島遺跡（函館市）③入江貝塚（洞爺湖町）④田小屋野貝塚（つがる市）
⑤二ツ森貝塚（七戸町）⑥三内丸山遺跡（青森市）⑦大船遺跡（函館市）⑧御所野遺跡（一戸町）
⑨入江貝塚（洞爺湖町）⑩小牧野遺跡（青森市）⑪伊勢堂岱遺跡（北秋田市）⑫大湯環状列石（鹿角市）
⑬キウス周堤墓群（千歳市）⑭大森跡山遺跡（弘前市）⑮高砂貝塚（洞爺湖町）
⑯亀ヶ岡石器時代遺跡（つがる市）⑰是川石器時代遺跡（八戸市）a 長七谷地貝塚（八戸市）b 簗ノ木遺跡（森町）



中居遺跡南側の低湿地

風張 1 遺跡と合掌土偶

風張 1 遺跡は、新井田川を挟んだ、是川遺跡の対岸の台地上にある縄文時代後期後半を中心とした集落遺跡です。集落は土坑墓群を中心に、竪穴建物や土坑が繰り返し造られており、全体が環状になっています。縄文後期後半の環状集落は、東北北部で数少なく、その全容がわかる貴重な事例です。

平成 9 (1997) 年に国重要文化財に指定された風張 1 遺跡出土品 666 点の中から、合掌土偶が、平成 21 (2009) 年に国宝に指定されました。土偶は、竪穴建物跡の出入り口と反対側の壁際から、出土しました。

「合掌土偶」は、座った状態で腕を膝の上に置き、正面で手を合わせている形から名付けられました。体には磨り消し縄文が施され、胴には刺突文が縦に並びます。両足の付け根や腕の部分が割れており、割れ目にはアスファルトが付着しています。当時の縄文人が修復をして大事に使っていた様子がうかがえます。顔などに赤い顔料が残っていることから、全身が赤く彩色されていたと考えられます。



※赤い部分にアスファルトが付着



風張 1 遺跡の調査状況



合掌土偶が出土した竪穴建物跡



合掌土偶の出土状況

■利用案内



八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 〒031-0023 青森県八戸市大字是川字横山 1 Tel 0178-38-9511 Fax 0178-96-5392

○開館時間

午前 9:00 ~ 午後 5:00 ※入館は午後 4:30 まで

○休館日

月曜日 (祝日・振替休日の場合は開館)
祝日・振替休日の翌日 (土・日曜日、祝日の場合は開館)
年末年始 (12/27~1/4)

○観覧料

※特別展は料金が変わります。

一般 250 円 (130 円) ※ () 内は 20 名以上の団体料金
高校・大学生 150 円 (80 円)
小学・中学生 無料
八戸市内の 65 歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は半額になります。

○アクセス

八戸自動車道 [八戸 I.C.] から 10 分、八戸久慈自動車道 [八戸是川 I.C.] から 5 分
南部バス「是川縄文館ゆき」JR 八戸駅東口から約 25 分 (土日祝日のみ) 是川縄文館下車
南部バス「是川団地ゆき」中心街ターミナル③から約 15 分 是川縄文館下車



是川縄文館
マスコットキャラクター
「いのるん」